

## 6. 国内研修アンケート集計結果

JICA 森林・自然環境協力部  
睦好 絵美子

### (1) 国内研修アンケート結果のまとめ

達成感は NGO、JICA 参加者とも高かった。以下にアンケートから主要なポイントを抜粋する。

#### ①本研修で良かったとされた点

- ・人的ネットワークを築くことができた。分科会での議論は大変有益だった。
- ・NGO、JICA の執務環境や事業運営の違いについて理解が進んだ。また、国際協力の理念においてはそんなに差がないこともわかった。
- ・「プロジェクトに終わりはあるのか」は難しいが良いテーマだった。
- ・パネルディスカッション、事例報告のいずれも、好対照の事例が選ばれ、大変参考になった。
- ・（明確な答えは見つからなかったが、）「プロジェクト」「プロジェクトの終わり」「自立」といったことについて掘り下げて考えることができた。

#### ②NGO 参加者にとっての特記事項

- ・JICA のみならず、他の NGO の活動について理解が進んだ。他の NGO についてももっと学ぶ必要を感じた。

#### ③JICA 参加者にとっての特記事項

- ・NGO 事業（草の根技術協力）の制度設計、実施に今回の研修結果を反映させたい。

#### ④改善すべき点

- ・分科会や最後のアクションプランでは、NGO と JICA の具体的な協力・連携の進め方や役割分担などについて議論を深めたい。
- ・今回の議論は秩序だてて進める方法だったが、そのような誘導をしないフリートークをするのもよい。
- ・参加者はなるべく海外のプロジェクト担当経験があると良い。

#### ⑤研修関係者からの反省点

- ・事例は大変良かったが、十分に使いこなせていなかった。最後のアクションプランでも具体性が不足していた。テーマをもう少し深めることができたのではないか。
- ・分科会で議論をまとめすぎたのではないか。もう少し自由な議論があっても良かったかもしれない。

## (2) コメント

アンケート結果からは、「プロジェクトに終わりはあるのか?～自立発展性を考える～」というテーマ選択、テーマへの導入部分としてのパネルディスカッション、及び具体的な議論をするための事例選択については、NGO、JICA のいずれの参加者にとっても大変適切であったと言える。

しかしながら、最後の全体会で「プロジェクトのよりよい終了のために」のアクションプラン作成にうまくつながらなかったと感じている検討委員は少なくなかった。せっかく良いテーマや事例を題材に議論をしながら、最後のアクションプランが若干具体性や深みに欠ける発表となってしまったのは確かに惜しいと感じる。NGO、JICA に分かれてそれぞれの組織に向けての改善提案を作成するというのは良かったと思うが、NGO 参加者はそれぞれ異なる組織に所属していることや、時間不足やプロジェクト経験者不足も原因かもしれない。

「自立発展性」や「終わり方(あるいは、終わりはない場合の続け方)」について、「答えは見つからなかった」「おぼろげながらわかった気がした」と答えている参加者も少なくない。どのようにしたらもっと議論を深められたのか、また、具体的なアクションプランにつなげることができたのだろうか。分科会では NGO と JICA の比較、事例の理解や比較にかなりの時間をかけたが、次回試してみるのであれば、ひとつの事例の望ましい「終わり方」と「終わらない場合の継続の仕方」を比較する、などの議論も有効かもしれない。

「プロジェクトの終わり」を考えることとは離れてしまうが、NGO、JICA の両方の参加者数名から提案があった「NGO と JICA が具体的に連携を進めるための方策」や「一つの事業を協力して実施するときの互いの役割分担や関わり方」といったテーマのほうが具体的なアクションプランを考えやすかったのかもしれない。

分科会での議論の進め方については、ほとんどの参加者が良かったと評価している。一方で、グループ発表を意識して「議論をまとめてしまう」傾向があったことは否めないし、フリートークにしたほうがもっと活発な意見が出たのではないかと意見もあった。フリートークの時間と、ある程度ファシリテーターによるワークショップで考えをまとめていく時間の両方がとればベストと考える。

これまでの6回の研修で毎回テーマを変えてきたところだが、今回のテーマ・事例とも大変優れていたことから、研修教材として今回のテーマ・事例を今後2-3回使っていくことで配布資料や議論の進行方法ともにもっと熟成させることができるのではないかと考える。

以上

## NGO-JICA 相互研修（国内研修）アンケート集計結果

（NGO 参加者）

Q1. 研修に関してご自身で当初設定した目標を達成することが出来ましたか？

- － 十分できた・・・・・・・・ 2名
- － できた・・・・・・・・ 10名
- － どちらともいえない・・・・ 3名
- － あまりできなかった・・・・ 0名
- － できなかった・・・・・・・・ 0名

ご自身が得られたと思われる成果について具体的にご記入下さい。

（今回のテーマ「自立発展性」に関するコメント）

- －自分たちの運動には終わりが無いということを再認識した。社会変革のための国際連帯は終わらない。
- －プロジェクトを始める際「終わり」をイメージすること。
- －自立発展性を漠然と理解していたつもりだったが、このことばが、自分自身の経験と一致しないことがわかった。だれの自立、どう自立ということを念頭におきながら終了に向けて達成目標をたてていく必要性を学んだ。
- －「プロジェクトの自立発展性」について異なる立場の参加者と議論ができた。自分が普段意識せずに使っている「プロジェクト」や「自立発展性」（sustainability）という言葉が、人によって様々な解釈があり得ることに気づけたのも大きな収穫であった。また、プログラム中の討議以外にも、多く意見交換ができ、新たな発見があった。
- －“自立発展性”について考えを深めることができた。
- －「自立発展性」「プロジェクト」を考える時に整理するべきこと。
- －「プロジェクトに終わりはあるか？」という問いへの答えについてはまだ自分の中で整理できていない部分もあるが、様々な人々と活発な議論を持つことができてよかった。普段交流する事の少ない他団体や JICA の人と、2泊3日共に過ごし、立場を超えて様々なことを話すことができたこともとてもよかった。
- －プロジェクトの良い終わりには、明確な評価が必要で、それを次のプロジェクトに活かせるようにしたい。
- －私自身が期待していた「プロジェクトに終わりはあるのか」というテーマは、他の NGO の方、JICA の方もそれぞれ答えがみつからない状態だということがわかり、いろいろな経験を聞くことはできなかった。しかしそれぞれ NGO の立場や活動も違い、JICA の方も考え方や仕事内容、NGO へのイメージなども違い、その中でしっかりとした意見交換を十分出来た。NGO-NGO、NGO-JICA、（もしかしたら JICA-JICA でも）わかり合えた点がよかった。プロジェクトに終わりがあると思っていたので、「終わりはない」という意見も聞いたので、視点が変わった。
- －プロジェクトの終了について、日頃、漠然とした思いを明確にできた。また、このテーマについて JICA からの参加者とある程度認識を共有した。

(NGO-JICA 相互理解に関するコメント)

- JICA との意見交換、相互理解
- JICA と NGO の相互理解、関係づくりについてヒントが得られた。(JICA 訪問、分科会、その他フリータイムを通じて)
- JICA のプロジェクトに対する、また、NGO に対する考え方が少し判った。他の大きい NGO がどのように活動を行っているか、少し判った。
- JICA という組織自体とそのプロジェクトへの取り組み方について理解することができた。他団体がプロジェクトをデザイン、実行していく上で、留意していることやその目標など、多くの気づきを得た。
- JICA、NGO の違い、共通点がわかり、今後の協働の形が見えてきた。“プロジェクトの終わり”この事について考える機会があった事、意見の共有ができた。
- 他の NGO/NPO がかかえているローカルコミュニティ (カウンタパート) との連携方法について、共有する機会が持てた。NGO/NPO のプロジェクトへのアプローチが違うということを JICA 側が認識して頂いた (そのきっかけになった) のではと期待し、当初設定した草の根技術協力事業申請に対する理解を深めることができた。
- JICA・NGO それぞれの立場における事業の方向性・運営方法の違いが理解できたと。同時にそれぞれの立場から、役割分担を以て援助を行い、協力体制を築いていけることが、改めて確信出来ました。
- 他の NGO、JICA からの参加者との人的ネットワークが作れた。

(今後の活動、その他)

- 自分たちの課題、やるべきことが具体的に考えられた。(全体会)
- 今後の援助プロジェクトの立案、実施において、具体的な改善事項がクリアになった。
- 所属団体に持ち帰って議論を深めていく上でのヒントがたくさん見つかった。
- プロジェクトとしてのフレームをしっかり持つこと、基本的な事を満たしていくことで現在やっていることの意味が明確になり、より良い効果が得られるということ。JICA、他の NGO をより良く知ることができ、お互いの共通点、相違点がわかった。そのことによって自分の NGO の役割についても知ることができた。また、共通点の確認ができたことで、自信がもてたように思う。集団で学ぶこと (シェアすること) の大切さを改めて感じた。
- 立案・実施・評価は全て重要だし、関わっていることを認識できたこと。
- 自分たちの活動のとらえ直しができた。(目指しているもの)
- NGO は何を目指しているのか。

Q2. 研修中特に印象に残った点や良かったと思われるプログラムについてご記入下さい。

(分科会)

- 分科会…参加者それぞれの経験によって作り出された分科会。分科会の課程で、JICA と NGO のスタッフが共に議論をすることで、学びあい、補いあいの関係が見えてきたことが大変興味深かった。
- 「分科会(1)」 お互いの事があまり判っていなかったため、大きな違いの判る発言等が

あり印象に残った。

ーやはり分科会。

ー2日目以降のグループワークは、ファシリテーターの技量と受講生の側の積極的な参加が相まって、中身の濃いものになったと思う。また、最終日の全体会のグループワークでは、研修の成果を自分たちの具体的なワークプランに落とす作業が行われ、大変役に立った。

ー分科会は十分に話し合えてよかった。特に事例を話して下さったお二人、ファシリテーターの方々には大変お世話になりました。話し合いを深めることができました。また、参加者のみなさんがお互いの話を良い方向で前向きにとらえていく姿勢がとても好きでした。おかげで参加者全員が自分の持っているものを十分に生かしたと思います。

ー分科会…JICA・NGO という視点からではなく、個人の視点から援助に対する姿勢、そのあり方などシェアが出来たこと。

ー分科会で具体的な事例を話し合えたのは良かった。

ー2日目の分科会「プロジェクトの終了」受益者の自立発展性について理念的な議論を他のNGO、JICAからの参加者とともに深め、共通認識が得られた（NGOとJICAとは、アプローチが異なるのみで、理念的にあまり差がないとの発見は大きかった）。

#### （パネル討議）

ーパネル討論は極端な例で（特にNGO）最初は戸惑ったが、議論に深みがでたように思う。「プロジェクト」を超えて、大きな枠で目指すもの、というところまで共有することができてよかった。

ー初日のパネルディスカッションが非常におもしろかった。ディスカッションのあとの会場全体での議論の時間がもう少しあってもよかったのでは。分科会は本当に有意義でした。

#### （事例紹介）

ー具体的な事例報告を数例あげて問題提起をして頂きましたが、とても参考になる事例で、数日後（研修会終了後）、当会の会員NPO事業のあり方、運営方法を考える上でとても役に立った。人的ネットワークの構築になったので出来ればNGOの事例報告をもっと知って行きたい。

#### （全体）

ーJICAや他のNGOの方々との意見を交換できたこと、特に、JICAの方々、NGOの手法や課題、思い入れなどに共感して下さったことが、とても印象的だった。

ー参加者の自発的な参加を促進するプログラム全てがよかったと思います。二年目（二回目）ということで、かまえず、JICAと意見交換できた。

ー「プロジェクト」とは何か？考えられたこと。（2日目、3日目）。自分は「NGOよりJICAのプロジェクトのほうが理解していた」と気づいたこと。

ー1日目：NGOとの連携事業について 2日目：フィリピン農村生活改善研修強化計画

Q3. 今後に向けての改善要望事項等があればお書き下さい。

#### (日程)

- 休日のある週に研修を行うという日程は、少し大変だった。(3日つぶれてしまうので)。もう少し時間があれば…と思うのですが、実際は、いくらあっても足りないかもしれないですね。
- 初日の JICA 訪問はもう少しコンパクトにしてもよかったです。JICA 側講師の資質にバラつきがあったような気がする。
- 最終日に、JICA、NGO それぞれの側で課題を上げシェアを行ったが、もう少し時間をかけて(と言うより、各々の(NGO と JICA の) 事例を各々のレベルでも議論する時間があればよかったと思います。
- アイス・ブレイキングの時間(回数)を増やす。
- 最終日、全体討議のふり返りの時間が十分なかったのが残念だった。

#### (内容)

- 実際 JICA とどう共働、協力していくのかのワークショップをして実現して下さい。
- 研修全体の意見共有があればよかった。ずっと室内なので天気の良い日は外でディスカッションをしても良いかも。
- NGO-JICA 間の連携を具体的にどう進めるか、というテーマでのグループ討議があると良いのではないかと。今回の研修で相互理解が深まったので、その次のステップとして。
- NGO についても様々な団体があると思うので対照的な事例をあげてほしいし、JICA の事例についても、効果のあがらなかった Project を題材にして良かった点と悪かった点について検証してほしい。NGO についても同じことが言えますが、プレゼンターがとても良くてわかり易かった。
- 成功事例でなく大失敗例を NGO、JICA 相互に出す→心を開いてディスカッションができるかもしれません。
- テーマが難しかった。でもその分意見交換が活性化されたので良かった。

#### (対象者)

- 事例報告をもう少し比較しやすいように基本(対象人数、資金等)をおさえたい報告にしてほしい。
- JICA 側の参加者は殆ど国内事業(NGO との連携など)担当者であったこと。NGO との連携という点で、お互いの理解が深まったことはよかったが、テーマだけに実際海外プロジェクトに関わる人の参加があってもよかったのではないかと。参加者の方々は非常に NGO に理解があったが、JICA 内での NGO との連携というのは、まだ一般的でないのかも感じた。

#### (その他)

- 私は小さな NGO ということもあり、意識して研修などをしていかないといけないと感じています。今回も PCM や PDM についていろいろお聞きし、こういう研修にも出たいなと思いました。

Q4. その他感想、ご意見等があればお書き下さい。

- 分科会のファシリテーターがよかった（グループD）。最初の3時間分科会(1)でフリーに気づきを話しあえたことで課題を深く捉えることができ、議論が深まった。
- JICA と NGO（大手）と NGO の考え方の違いが大きすぎて、今後どうなるのだろうと思った。
- NGO と JICA の協力について話すことができて良かった。他の NGO について知ることができ、違いや共通点を発見することができた。この研修を支えてくださった方々、どうもありがとうございました。
- 多くの方と知り合うことができました。ありがとうございました。ご無礼、暴言ご容赦くださいませ。
- JICA 職員も、自分達自身、組織が変わらなければとまらないという思い、独法化と絡みである種の危機感を持っていることが分かり、新鮮な驚きだった。一方、私達も変わらなければという思いを強くした。今後、支援者、裨益者のために努力したい。また、NGO と JICA の関係の切なる自立発展のために努力したい。皆様、ありがとうございました。海外研修を楽しみにしています。
- 国内研修と海外研修の連関がよく考えられていると思いました。（海外研修に参加する上でよい材料になりました。）
- 海外研修に向けて、この研修を活かせるようもう1度整理して参加したいと思います。
- 今後この人間関係を活かして互いのチェック機能をはたせると良いと思います。
- JICA 職員に一言！全体的な傾向としてはありますが、受講者アンケート（事前に記入・配付）への書込みは手書きでも良かったのですが、やはり読めないか読みづらかったので次回から改善お願い頂ければと思います。
- みんなが明るく、そして十分な時間をかけての話し合い、すごく楽しかったです。これからの日本（そして世界！）を支えていく若い人たちが、元気で頑張っている姿にふれることは、それだけで幸せなこと！ぜひ現場で人と接して仕事をされる時にも、困難な時にも、ゆっくりとじっくりと明るくやっていきましょうね！
- ファシリテーター、検討委員、事務局の皆様へ感謝致します。
- ファシリテーターの皆さんのおかげでとても有意義な議論ができました。どうもありがとうございました。
- 関係者の皆様、本当にお世話になりました。どうもありがとうございました。
- お忙しいところ、企画、運営された皆さんに、感謝します。ありがとうございました。
- 検討委員会の皆さん、おつかれ様でした。よくプログラムを考えられていたと思います。
- 検討委員や関係者の皆様、本当にお疲れ様でした。有意義な研修になり、沢山宿題ができました。

(JICA 参加者)

Q1. 研修に関してご自身で当初設定した目標を達成することが出来ましたか？

- － 十分できた・・・・・・・・・・ 3名
- － できた・・・・・・・・・・ 8名
- － どちらともいえない・・・・ 2名
- － あまりできなかった・・・・ 0名
- － できなかった・・・・・・・・ 0名

ご自身が得られたと思われる成果について具体的にご記入下さい。

(「プロジェクト」、「自立発展性」に関するコメント)

- －NGO の考える“プロジェクト”、“自立発展性”といったものについて、JICA 側と異なる概念であることがわかった。NGO のプロジェクトの立案・運営といったものが理解できた。是非現在担当している草の根技術協力の制度設計、実施に反映させたい。
- －NGO と JICA のプロジェクトに対する認識の違いがある程度理解できた。JICA 自体を、比較を通じて客観的に見ることができた
- －プロジェクトに対する NGO の考え方を理解できた。NGO の事情（予算、外部条件に左右されやすい、活動しているうちに活動が広がる等）によりプロジェクトの枠組み等が左右されている。今後 JICA と NGO のコラボレーションをより具体的に探る材料となった。
- －NGO の方々がどのようにプロジェクトをとらえているか。プロジェクトの自立発展性 (sustainability) には何に配慮してデザイン・実施・評価をおこなうべきか、実例を見ながら抽出することができた。
- －“プロジェクトとは何か”という問いに対する答えがおぼろげながらも見えてきた。JICA と NGO 間の認識の違いはいうまでもなく、個々人の考え方の違いも議論を進めていく中で整理することができ、とても参考になった。
- －NGO の「プロジェクト」とは何か、「終わり」とは何か、ということについて何となくわかった。NGO の「プロジェクト」を考えると、JICA が考える固定観念としての「プロジェクト」は忘れなければいけないと思った。他の点でも、互いの相違点と、相違点のように見えて実はそれほど違ってないこともある（程度の問題）ということがわかった。

(NGO-JICA 相互理解に関するコメント)

- －NGO に期待していた、市民による循環型社会形成に関する考え方についていろいろ聞くことができ、またそれを相互扶助というテーマに結びつけることができた。さらに多くの方と目指している点が同じであることを確認しあうことができ、有意義であった。
- －人脈を拡げたこと。NGO の考えるプロジェクトと JICA のそれとの違いを理解できたのが最大の収穫。草の根技術協力事業制度の参考になる情報を多々得たことも大きな収穫。
- －第一目標であった“NGO を知る”については、ほんの一部かもしれないが理解できたような気がする。また、同じ国際協力に携わる者同士で“熱く語り合う”ことによって、



今後も国際協力を続けていく意義について考えることができた。

- NGO の事業について学ぶこと、NGO の方と人間関係を築くこと、JICA の事業に関し改善点を考えることができた。

(その他)

- 人材養成事業という、プロジェクトとは縁遠い自分の事業にも持ち帰るべき課題を見つけることができた。事業実施前に入念な準備、自分と相手の役割の確認。
- 自分が今まで「国際協力用語」だと思っていた言葉が、実は JICA の言葉だった、ということに気付いたこと。JICA の協カスタイルだけが国際協力ではないということがわかったこと。いろいろな人と話し刺激されたこと。
- 文字で表現できない部分の大切さがわかったこと。

## Q2. 研修中特に印象に残った点や良かったと思われるプログラムについてご記入下さい。

(分科会)

- 分科会：課題がよかった。NGO 側・JICA 側がまったく別の実状を抱えていることがわかった。
- 分科会、事例紹介。NGO にとって JICA の計画立案手法が参考になった様であったことが印象的であった。
- 分科会でプロジェクトの発展・到達点（スパイラル理論、共生）について徹底的に議論できたことが印象に残った。
- 分科会：普段は業務に追われて、あまり考えなかったテーマを深く掘り下げて考えることができた。
- 分科会（A グループ）の中でやったパズルゲーム。目からウロコが落ちました。

(パネル討議)

- 第一日目のパネル討議。問題点が示されるだけでなく、それぞれのパネリストの考え方も示されとても参考になった。

(事例紹介)

- 事例紹介：NGO（ネグロスキャンペーン）、JICA（フィリピン農村開発）が対照的で好事例だったと思います。

(事務所訪問)

- NGO の事務所訪問（ヒマラヤ保全協会）：NGO の組織の運営方法、課題がよくわかった。
- シェアの事務局に訪問できたこと（NGO の方が働く環境を身近に感じる事ができた）。JANIC の山崎さんのお話を聞いて NGO で働く雰囲気を感じる事ができた。
- NGO 訪問、アイスブレイキング。

(全体、その他)

- プログラム全体としてよく構成され、検討委員の方が大変な苦勞をしてこの研修内容を企画されたことを実感しました。JICA と NGO とのバランス（チーム構成、発表者の選定等）をいつも意識されていたことがよかったです。
- 「プロジェクトの終わりを考える」というテーマは、皆で議論できるよいテーマ設定だと思います。
- JICA も NGO も目的は同じということ。（でもプロセスが違う）NGO と一言で言っても、それぞれに個性があり、今後の援助協調において、うまくマッチングできそう。

### Q3. 今後に向けての改善要望事項等があればお書き下さい。

(日程)

- NGO 事務所訪問を効率よくすれば、2カ所訪問は可能だったかもしれません。（JANIC を含めれば2カ所訪れましたが）
- 最終日が土曜日になっていること。
- もう少し討論の時間を増やしてもらいたい。
- 盛りだくさんのプログラムであったためやむを得なかったと思うが、もう少し時間的余裕がほしかった。
- 初日の集合場所について、荷物があるので研修所スタートにしてもらうほうがよい。
- 2日目のプログラムについて、「昨年場合は深夜まで…」と言われると「終わり」がなく、議論に区切りがあまりつかず、メリハリがなかった気がする。

(内容)

- NGO-JICA の協働のあり方や連携について具体的な提言を出すといった形にしても面白いかもしれません。（フェーズⅡでしょうか？）
- ワークショップは、ともすれば一部の人に引きずられてしまいやすい。特にボードと付箋紙を使ったやり方ではそうになってしまう。普通に議論を戦わせるほうがよいかもしれない。
- グループディスカッションのマネージメントの仕方。今回は始まりから終わりまで（特に議論の進め方において）オーガナイズされた進め方でしたが、本当に思いのたけを語る事ができたとは思えません。議論の秩序について配慮をしないで、とことんフリートークするテーマ設定と議論のマネージもありえるかと思えます。
- 研修初日で「NGO と JICA の相互補完」というテーマが少し出ていましたが、事例を通じて JICA と NGO とが連携して一つの事業に取り組む時のお互いの関わり方、役割の違い等を見ていく、というプログラムがあれば個人的に素晴らしいと思いました。

(人選)

- 参加者の経験年数をもう少しそろえた方が良いのでは。
- JICA 地方センターや地方 NGO の参加奨励をよろしくお願いします。
- NGO と JICA の割合が半々くらいになればいいと思いました。

Q4. その他感想、ご意見等があればお書き下さい。

- NGO と JICA の双方向性、合同の研修は今後も様々な形態で続けなければならない。
- (研修終了時に、研修の結果を天気にと考えると) 晴れだと答えましたが、今は少しくもりです。熱い心をもって働くことができているか顧みると、必ずしもそうではないと思います。事業運営において、常に現場を意識して、強い思いで日々過ごしたいと思います。
- 国際協力を研究する、論文を書くという視点から見ると「言葉の定義付け」は避けて通れないのではないかと感じました。何でもカタカナ・横文字に置き換えてしまわず、日本語できっちり捉えなおして、借り物でない「日本の国際協力」を確立できたらいいと思いました。濃かった。
- 夜遅くまで討議するのは大変ですが、楽しい経験でした。
- 講師、ファシリテーター、事務局の方々、お疲れ様でした。ありがとうございました。
- 非常にためになりました。
- 面白かったです。今後、いろいろネットワークとして活用していきたいと考えています。
- このような機会を与えていただき、ありがとうございました。今後もこの研修が続くことを期待します。
- 予想以上に有意義でした。

(研修関係者)

Q1. 今回の研修は初期の成果を上げることができましたと思われますか？

- 十分できた・・・・・・・・・・ 1名
- できた・・・・・・・・・・ 8名
- どちらともいえない・・・・ 0名
- あまりできなかった・・・・ 0名
- できなかった・・・・・・・・ 0名

具体的な成果だと思われるものをご記入下さい。

- NGO と JICA のプロジェクトに関する相互理解「プロジェクトは終了する」という認識ができたことと、「社会変革運動」も視野に入れて取り組むことへの理解が進んだと思う点。
- JICA、NGO の組織としての課題（テーマに関連した）を明らかにすることができた。個人としても、ファシリテーターとして皆の意見・経験をシェアしてもらう中で、自分が担当している事業について課題が見えてきた。（後は自分なりにアクションプランを作成し、実行するのみ）
- 自立について共に考えたこと（NGO、JICA 問わず）。自立についての理念、定義などを自分なりに整理できた。自立に向けての具体的な筋道が少し見えてきた。NGO、JICA スタッフの相互理解が進んだ。
- プロジェクトの終了について、意見を交換して考えを整理できたこと。
- 各参加者が、「日常」から「非日常」の場に来て、違う頭・心・体の部分を使ったのではないか。NGO と JICA 混成でワークショップをするのは、やはり非常に有効。
- NGO、JICA が相互に違いを認め合いながらも、プロジェクトのより良いあり方について意見交換ができた。自分一人では思いが及ばない気づきを得ることができた。
- NGO、JICA それぞれの具体的な案件について理解できた。NGO、JICA それぞれの職員がどんなことを考えているのか、理解するきっかけとなった。「プロジェクト」と「社会運動・交流・相互理解」の違いについて理解し、「プロジェクト」を運営し、効果を出すことについて考えるきっかけとなった。
- 自分自身、PDM でとらえきれないものの重要性を考えている人がいることを知り、PDM ・プロジェクトの成果について考え直す機会を与えられた。次回の新規案件検討会にむけてできること（改善点：上位目標の達成ができるよう、プログラムを意識する）を見つけられた。
- 一堂に会することで、率直な意見交換ができたこと。NGO と JICA というのは実は本質的に違ってないのでは、と思ったこと。成果というより、このような「プロセス」があったこと。

Q2. 研修中特に印象に残った点や良かったと思われるプログラムについてご記入下さい。

#### (分科会)

- 分科会の最後の掘り下げ議論は感動的だった。(4グループ4様なのも良かった)
- 分科会：当初想定した内容とは異なったが、参加者の主体的な参加を得て、一体となってグループとしての成果を共有することができた。
- 分科会：直接的に膝をつき合わせて話をする機会が何よりいいです。青木さんのファシリテートがとても素晴らしかったです。検討委員の人選がよかったとも思います。

#### (パネル討議)

- パネル討議はなかなかポイントが絞れていて良かった。
- パネル討論で適切な問題提起ができた。比較対照として両事例が適切だった。それぞれの分科会に特徴があり、共有できて良かった。
- パネルディスカッション：終わり方を考えるいいプレゼン、議論だった。

#### (事例紹介)

- 個人的には事例が大変良かった(研修事例として)と思います。
- NGOとJICAの事例紹介は、それぞれの特徴がわかり非常に良かった。

#### (全体、その他)

- パネルディスカッション、事例発表のどちらも、案件・人選ともに適切であり、議論のための良い材料となった。グループディスカッション、発表、個人作業、グループディスカッションといった流れにより、個々人が考えを深められた。
- JICAの参加者のエネルギーがやはり圧倒的。(普段仕事上で表現できないことをしているのかしら?)

### Q3. 今後に向けての改善要望事項等があればお書き下さい。

#### (内容)

- 事例について、検討委員の間の事前の分析がもう少し必要だったのではないだろうか。事例をうまく使いこなせなかったように思います。事例自体は大変充実した内容のあるものでしたので、それが少し残念でした。
- 2日目の意見交換会の2時間に、自分の分科会グループ以外の人たちと触れるためのちょっとしたファシリテーション/仕掛けがあったらいいかも。
- 研修3日間の詳細な流れ・作業スケジュール・成果品イメージといったものが、当日の打ち合わせで決まっていく形だったが、できれば事前の検討委員会でもう少し決めておき、参加者にあらかじめ示しておいたほうが、参加者にとっても「今自分がやるべきこと」が明確になったのではないか。
- NGO、JICAともやはり守りの姿勢になってしまう。どうやって率直な形にできるか考えたい。

#### (人選)

- テーマによってやはり受講者の選定は十分に考えた方が、本人にとっても良いかも…。(概念的な部分でしか話ができない人もいたのでは?)

- JICA 側の出席者を中心に、典型的なプロジェクト経験者が少なく、より経験の多い人が出席できるようにできないものかと思っています。
- やはり JICA と NGO は同人数のほうが良い。

(その他)

- NGO 人材育成研修と本研修の位置づけ、参加資格の見直し。

#### Q4. その他感想、ご意見等があればお書き下さい。

- 「自立」や「sustainability」ということについて、議論を深めることは難しいと感じた。最後の組織ごとのアクションプランでも、正面から「自立発展性」や「プロジェクトの終わり方」について取り上げたグループは少なかったが、それはやはり難しいテーマだからだと感じた。
- 少々残念だったのは、「アクションプラン」に具体性がまだまだなかった点。グループ討議、あるいはこの全体会の進め方にもう少し工夫が必要だったかもしれない。但し、このセッションでの議論内容自体が、参加者にとって意味のあるものではあったようなので、これでもやむを得ないのではないかとも思うが…。
- 3日間の連続した、しかも泊まり込みという方式は JICA 側出席者にはかなり厳しい条件であると思います。一方で、地方の方を対象とするためには毎週というようなスケジュールにもしづらく、難しいところです。
- ワークショップについて、ファシリテーターとしてのシミュレーションが不足しており、反省している。
- 分科会のファシリテーターとして反省点がいくつかあります。(1) JICA/NGO のコントラストを見るという expectation が満たせなかった。(2) まとめに走りすぎて深い議論ができなかったのではないか。
- ファシリテート業務に十分貢献できませんでしたが、参加者の皆さんの活発な取り組み、田中さんのおかげで、今年も達成感を味わうことができました。ありがとうございました。
- 皆さん、本当にご苦勞様でした。それに、ありがとうございました。検討委員会の会議一つ一つが自分にとっても学びになりました。